

第2回 ユニバーサル社会における MaaS の活用方策についての研究会 議事概要

1. 開催日時・場所

- ・開催日時：令和2年12月1日（火） 13：30～15：30
- ・開催場所：Web 会議

2. 出席者

【委員】

- 秋山 哲男 中央大学研究開発機構 教授 [座長]
谷口 綾子 筑波大学 システム情報工学研究科 教授
中村 文彦 横浜国立大学 副学長・教授
牧村 和彦 一般財団法人計量計画研究所 理事（事前の意見提出）

【オブザーバー】

- 一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会
一般社団法人全国レンタカー協会
定期航空協会
公益社団法人日本バス協会
一般社団法人日本民営鉄道協会
一般社団法人日本旅客船協会
認定 NPO 法人 DPI 日本会議
社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
一般財団法人全日本ろうあ連盟
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
京浜急行電鉄株式会社
東京地下鉄株式会社
東京都交通局
東日本旅客鉄道株式会社
日本航空株式会社
株式会社ゼンリン
株式会社ヴァル研究所
株式会社駅探
ジョルダン株式会社
株式会社ナビタイム
WHILL 株式会社

【国土交通省】

総合政策局安心生活政策課長
総合政策局情報政策課長
鉄道局総務課企画室長
自動車局総務課企画室長
海事局総務課企画室長
海事局内航課旅客航路活性化推進室長
航空局総務課政策企画調査室長
道路局企画課評価室長
都市局都市計画課都市計画調査室長

【ゲストスピーカー】

株式会社ミライロ

【事務局】

総合政策局モビリティサービス推進課

3. 議事

3.1. 開会

※事務局より開会を宣言。

3.2. 討議

【MaaSの活用方策の方向性について】

- ・ 空港などにおける取組みでは、それぞれの事業者ではなく、空港ビル事業者協会等の事業者が集まった団体が主体となっている取組みがある。それぞれの事業者が個別に取組みを実施した場合は、事業者毎の提供するサービスに差が出る懸念もあることから、主体については引き続き対応の検討が必要であろう。
- ・ 段差に関する情報については、具体的な段差の高さだけでなく、「移動困難な段差」か「移動可能な段差」であるかといった情報も重要である。勾配については、全ての情報を収集するのは困難であることから、移動困難と思われる箇所を重点的に収集するなどの情報収集・整備の優先度も重要ではないか。
- ・ 例えば、電車であれば、事前に伝えていた目的駅よりも手前の駅で急に降車したい場合や、バスであれば、目的地のバス停よりも途中で降車したい場合など、手続き面や車両への固定等の観点から柔軟に対応できない場合があり、移動の自由度を享受できていないのではないかと。MaaSにおいても、情報の連携が進み、アプリケーション等によって事前に目的地を設定したとしても、同様の状況になる可能性があると考えており、サービスの連携については引き続き検討が必要である。
- ・ 我が国では、民間企業が主体となって公共交通機関を運営していることから、欧州各国

と比較すると事業者間での「情報の連携」が進みにくい現状にある。しかし、本研究会が対象とするバリアフリーに関わるデータについては、交通弱者を支援する目的から、連携を行うことが可能ではないかと考える。広く一般に「情報の連携」が難しい場合であっても、最初の一步としてまずはバリアフリーに関わるデータを連携することを検討できるようになると良い。その上で、本研究会の結果を踏まえ、「MaaS 関連データの連携に関するガイドライン」の追記・修正を行うことに賛成する。

- ・ 交通弱者が、MaaS 等によって独力で移動を行いやすい環境を整備することは重要である一方、システムやハードの整備が進んでも周囲の人々のサポートを含む「心のバリアフリー」はこれまでと同様に非常に大切である。MaaS 等のシステムやハードが整備される中で、交通弱者へのサポートはシステムが対応するものという誤解をかえって与えてしまわないようにすることが重要である。
- ・ オープンデータについては、基本的には B2B、B2G を優先的に議論していけば良いのではないかと考える。その際、ユニバーサルな MaaS における協調領域と競争領域のデータは目安を提示していけると良い。
- ・ ハードな情報、連携が中心となっているものの、MaaS としては、個人許可を得た個人情報について、事業者間で共有するルール作りが非常に重要。

【情報の連携を行うデータについて】

- ・ 駅に関する情報として、無人駅に関する情報があると良い。無人駅の場合は、緊急時の連絡手段が固定電話の場合があるが、聴覚障害者は、電話での連絡が難しいため、無人駅の情報が重要になる。加えて、電話以外の連絡手段があるかどうかの情報もると良い。
- ・ インフラに関する情報として、避難所のバリアフリー対応に関する情報があると良い。例えば、観光地で災害などが発生した場合に、最寄りの避難所がバリアフリー化されているかどうか分かることは重要である。
- ・ 駅のホームに関する情報として、各社が進めているホームと車両の段差・隙間の解消状況に関する情報があると良い。
- ・ 公共交通全般に関する情報として、異常時・非常時のリアルタイムの運行情報があると良い。
- ・ 情報の連携だけでなく、連携された情報が視覚障害者等にも確実に伝わるような取り組みも重要である。例えば、画像データのみでの情報提供では伝わらない。

3.3. 閉会

(以上)